

総 括



長崎大学薬学部准教授
手嶋 無限

今年度公開したWEB講座『多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアの基礎知識』の模擬カンファレンスは、私の中で最も印象に残っている取組の一つです。長崎地域でご活躍の在宅療養支援の各分野の先生方が一同に集まり、非常に自然な流れの中にも、熱い想いを随所に見せ、アドリブも入りながらの収録を全て一発撮りで行いました。WEBでの公開後、全国から多くのお便りが届くなど反響もあり、学生だけでなく多くの職種にも示唆に富む内容で、学生教育の充実や地域への波及効果を感じました。また、今年度は地域住民・在宅ケア関連職種・学生に対する在宅がん医療・緩和ケアに関するアンケートも実施し、これまでの振り返りや今後に向けた多くの示唆が得られました。本連携組織や取組は文部科学省からの補助期間終了後の次年度以降も継続する方針であり、今後も地域に根差した取組として継続・発展していくよう、微力ながら関わっていく所存です。最後に、専任教員として本事業の推進に関わらせて頂いたことに深謝します。



長崎大学医学部保健学科助教
竹嶋 順平

本年度より在宅医療・福祉コンソーシアム長崎の一員として、本補助事業の取組みに携わらせていただきました。長崎県内の国公立3大学（長崎大学・長崎県立大学・長崎国際大学）が中心となって大学・地域連携で行っている実習科目では、大学・学部間の垣根を越えて、地域の訪問看護ステーション、薬局、診療所、歯科診療所の施設担当者とともに在宅療養支援の実際を学びます。それらを通し、学生は、多職種協働によるチームアプローチの重要性を学ぶことが出来ていました。「在宅がん医療・緩和ケア」「多職種連携」について学ぶと同時に、色々な専門分野の学生と関わる中で連携する能力を養える場となっていると考えます。補助事業期間終了後も本取組は継続していく方針ですので、微力ながら尽力していきたいと考えます。今回、このような取組に参加させていただき感謝します。



長崎県立大学看護栄養学部看護学科特任准教授
吉原 律子

「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」は事業の最終年度を迎えました。期間中、専任教員として『講義』『演習』『実習』と学生と共に学んできましたが、改めて各専門職を目指す学生が、教育の段階から大学の垣根を超えて共に学ぶ事の意義を感じています。

本学では、看護・栄養学科生のべ208名が履修しましたが、特に「実習」は、多職種協働を実感する機会となりました。加えてグループワークでは、対象者や家族に心を寄せ、他学部生との視点の違いに熱心に耳を傾ける学生達の姿に、この経験がこれからは現場の中で生かされていくものと期待しました。

今後、医療・看護・介護は地域と共に連携して進められます。そしてその担い手を育成するこの取組みは、そのスタートでもありました。

現在、事業は継続に向けた組織や各大学でのプログラムを編成中です。これまでご協力・ご指導を頂いた皆様に心から感謝いたしますと共に、これからもご支援の程お願いいたします。



長崎国際大学薬学部准教授
岩下 淳二

平成24年度大学間連携共同教育推進事業「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」を推進するため、「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」が長崎県内の3大学、4自治体、12職能団体、1NPO法人で組織され、5年が過ぎようとしています。本事業では、医療や福祉に関連する学部学科が集まって、各専門分野を生かしながらも他の分野についての学びを深め、多職種協働による活動が行える人材の育成を目的としたものです。

この5年間に在宅医療や福祉に関連する講義や演習、実習等を開講し、本学からものべ500名以上の学生が参加しました。これらに参加した学生からは概ね高評価をいただいているところです。一方で、一般市民や各専門職向けの「県民フォーラム」を開催しました。このフォーラムを通じて多くの方に現在の医療や福祉の状況、課題、今後の展望などの情報を発信することが出来ました。

今後、これらの教育を受けた人材が、各専門分野で活躍し地域のリーダーとして育っていくことを期待しているところです。

終わりになりますが、「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」の5年間の活動の中で参加した学生はもとよりご協力いただきました関係各位、快く講演をお引き受けいただいた先生方に心よりお礼申し上げます。なお、本事業は、今後も継続される予定となっておりますので、今後ともご協力よろしくお願いいたします。



長崎大学医学部医学科講師
山之内 孝彰

私は平成24～26年度に本コンソーシアムに専任教員として参加させて頂きました（全く臨床を離れていたわけではなく、当時のご迷惑をお掛けしたかと思えます）。大学卒業以来、ほとんどを癌患者さんと接して参りましたが、教員就任当初は、keywordである「多職種協働」、「在宅医療」等に関して具体的な知識に乏しく、学生への講義・実習の前に、自身も学ぶことが多々ありました。そのような状態でしたが、より良い医療・ケア提供のためには、様々な職種の方の協力が必要であると教え教わる日々でした。現在も長崎大学病院で多くの癌患者さんと接しておりますが、多職種協働の重要性をより深く感じる毎日です。今年度でコンソーシアムは国の事業としては終わると聞いておりますが、今後も何らかの形で、将来は様々な職種に就かれる学生さんへ、在宅医療・がん医療・緩和ケアを多職種協働で行うことの意義や重要性を理解し、実行可能な人材育成の継続を期待しております。



長崎大学歯学部助教
介田 圭

「長崎薬学・看護学連合コンソーシアム」事業を、さらに拡大・充実させた「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」が組織され、今年度で最終年度を迎えました。現在、わが国において、高齢者人口の増加とともに、重症度の高い在宅療養者が増加することが考えられ、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、介護福祉士、栄養士等、医療に携わる多くの職種の連携が必要不可欠であります。まだまだ日本の医療や福祉を取り巻く状況は厳しいものではありませんが、「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」の発足は、誠に意義深いものであり、医学・歯学・薬学・看護学の統合教育により、その連携能力を確立するものと考えてきました。この長崎でのコンソーシアムの取り組みが全国の他の地域でも共有できるような教育システムの構築に少しでも貢献できたのではないかと考えております。皆様のご協力に大変感謝しております。ありがとうございました。



長崎リハビリテーション病院地域リハビリテーション統括
(前事業推進責任者・前本部委員会委員長)
松坂 誠應

本事業の企画に医学部保健学科長として関わり、平成26年4月からの2年半を責任者として本事業を担当させて頂いた者として、本事業が多くの成果をあげて終了することは非常に喜ばしく思いますとともに、本事業にご協力頂いた関係各位に深く感謝申し上げます。

私事になりますが、本事業を実施している期間に3人の友人ががん罹患しました。3人とも短期間の入院後、外来で化学療法を受けることになりました。副作用が少ない抗がん剤が増えていたとはいえ、治療を受けた後の4、5日はとても辛く、加えて再発や転移などの不安、仕事や生活の仕方についての戸惑い等、様々な問題を抱えています。

医療技術の進歩により早期に退院が出来るようになり、在宅でその人らしい生活が出来るはずですが、身近に包括的な相談が出来る専門家チームが非常に少ないため、医療技術の進歩の恩恵を享受できていません。

このような状況を解消するためには多職種チームによる対応が不可欠です。本事業で培ったネットワークを生かして、更なる発展を期待します。



長崎大学副学長・学長特別補佐
(元事業推進責任者・元本部委員会委員長)
調 漸

報告書のプログラムに参加した学生達のコメントからもわかる通り、在宅がん医療・緩和ケアを協働・共修する科目を開発した本事業が多くの成果をあげて終了することは非常に喜ばしく思います。3大学・4自治体・12職能団体が結集して開始した本事業は、ステークホルダーとの協議を重ねることで強固な体制となり推進ができたと感じています。また、事業期間中に新たに1法人が加入するなど地域完結型教育の更なる基盤強化が行えたことについても、本事業にご協力頂いた関係各位に深く感謝申し上げます。

本事業開始時に取組責任者を担当させて頂いた者として、次年度以降も本事業で作り上げた大学と自治体・関連職能団体等との共同教育体制が継続されていくことを嬉しく思いますとともに、今後も在宅療養者とその家族のご理解を賜り、引き続き在宅医療・福祉を志す学生達の教育にご支援下さいますことを望みます。